

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月11日

事業ID:2024001063

事業名:三重県伊勢市における「子ども第三の居場所」学習・生活支援モデルの運営(最終年度)

団体名:認定特定非営利活動法人ときわ会藍ちゃんの家

代表者名:代表者 小林 慶士

TEL:0596-20-5155

事業完了日:2025年3月31日



■契約時

事業費総額	:	9,600,000 円
自己負担額	:	1,920,000 円
助成金額	:	7,680,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	9,602,355 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,922,355 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,680,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 三重県伊勢市における「子ども第三の居場所」学習・生活支援モデルの運営
(1)期間:2024年4月1日~2025年3月31日(週5日、放課後から20時まで開所)
(2)場所:三重県伊勢市
(3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に25名
(4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。季節ごとに遠足や農業体験、保護者と地域住民を招いてのイベントなどを実施し、子どもに多様な経験を提供する。また、日々の活動として、子どもの主体性を大切にしながら工作や調理実習、グループワークなどを通じて、子どもが生き抜く力を育めるよう支援する。



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 三重県伊勢市における「子ども第三の居場所」学習・生活支援モデルの運営
(1)期間:2024年4月1日~2025年3月31日(週5日、14時から19時まで開所 長期休暇時は11時から18時)
(2)場所:三重県伊勢市
(3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に25名
(4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。季節ごとに遠足や農業体験、保護者と地域住民を招いてのイベントなどを実施し、子どもに多様な経験を提供する。また、日々の活動として、子どもの主体性を大切にしながら工作や調理実習、グループワークなどを通じて、子どもが生き抜く力を育めるよう支援する。

(3)成功したこととその要因

利用児童については、自分中心で行動をしたり、暴力的な言動が見られるなど、自分の気持ちの表し方がうまくできないことがみられたが、1対1の関係を大切に子どもたちと一緒に過ごすことで、少しずつではあるが、ルールを守ることや学習意欲の向上など、子どもの変化をみることができた。手を洗う、挨拶をするなどの日常生活における行動は自然とできるようになってくれた。拠点内の物がなくなるといったことがあったが、自ら名乗り出てきちんと返してくれたのは、普段からの職員との関係がうまくいっているからだと感じられた。

各児童のフェイスシートや日々の記録を行うことで、職員各々が児童の特徴などを共通で理解することでその子に合わせた支援につながった。

季節ごとの遠足や農業体験では、普段見せることのない子どもの姿を見ることができ、特に保護者と参加のいちご狩りでは、親子の繋がりや家庭の様子を感じることができた。なかなか保護者と接する機会がない中で話をする機会が持てたことはとても良かった。

日々の活動の中で、段ボールや画用紙を使って家や剣など児童の個性ある作品を作ることができた。しかし、拠点だけでは活動の幅も狭くなるので「マインクラフト」や「MORIUMIUSプログラム」で活動を充実させる為に活用させていただき、ゲームの世界や自然の中で子どもたちの生き生きとした姿をみることができた。また、子どもと共に成長するためにも「ライフスキルサポート」に参加させてもらい、職員のスキルアップにつながった。今後の支援に繋げていきたい。

(4)失敗したこととその要因

子ども第三の居場所に対して理解をいただいている近隣住民の方は多いものの、児童の声に対して苦情もありなかなか理解を得られていない状況がある。地域の住民を招いてのイベントでは、ボランティアやイベントへの参加などにはいたらなかった。日頃からの挨拶やイベントの告知もしているもの、より第三の居場所を知ってもらい、関わってもらえるような取組みが出来ていない。

また、定員25名ではあるが、伊勢市からの紹介での利用となるため、児童の確保が難しい。

(5)事業内容詳細

子どもの自主性を重んじつつ、暖かい雰囲気の中で楽しく安心して過ごせる居場所となるよう配慮し、食事は、当法人の管理栄養士が提供する弁当を、拠点でご飯を炊き、食べる直前に温めたり、時には食器に移し替える等をして、食の確保や栄養面だけでなく食べることの楽しさやおいしさ・暖かさも考慮した。

進んで入浴をしてくれるが、雑な部分もあり遊んでいるところもある。それでも、洗髪も自身で行い職員とのドローイングの時間を楽しんでくれている様子がみられる。また、靴や鞆をしまうことが出来ずにいたが、日々の声がけやルーティーンの中で「靴はげた箱へ」「鞆はロッカーへ」、「手洗い、うがい」は定着させることが出来た。

学習については、県の学習支援の補助金を利用し、思考力や洞察力などを楽しみながら取り組めるドリルや学習教材などを活用し、子どもたちの意欲向上にむけ様々な取り組みを行っている。

活動に理解ある近隣住民の方は多いものの、イベント参加やボランティアでの参加にはいたらなかった。行政や学校とは、児童や家庭の状況などについて、変化や気になるところがあれば連絡を取り合い情報を共有した。特に、行政とは児童の確保に向けての共有も行ってきた。

1年を通して季節を感じるイベントを計画し、花見や流しそうめん・クリスマス会など行った。遠足は、バイキングへ行き、ルールを守ることやみんなで美味しく食べることを知ってもらうこともでき、児童にとって様々な学びの機会を持ってもらうとともに、子ども時代の大切な思い出づくりの機会を提供できた。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- ・2025年3月31日までに一日平均利用児童数を8名にする
- ・児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に6回実施する

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	585	文字数チェック	OK
1の達成状況:一日平均利用児童数が4人となり目標を達成できなかった。特に年度初めは、前年度で利用終了の子どもたちが多く、新たな子どもたちもいなかったのが平均2名となっていたが、最終的には利用児童が6名増えたが、目標には届かなかった。 2の達成状況:子どもの自主性を重んじつつ、暖かい雰囲気の中で楽しく安心して過ごせる居場所となるよう配慮し、食事については、当法人の食部門(管理栄養士のもと)でつくった弁当を、平常時は夕食の提供、長期休暇時は昼・夕食を提供し、おやつ提供も行った。入浴は、利用児童の全員が利用している。日々の声かけやルーティーンの中で挨拶や片づけを少しずつだが定着させることが出来た。学習については、児童自身の意欲向上に向けて様々な取り組みを行っているところである。 3の達成状況:活動に理解ある近隣住民の方は多いものの、イベント参加やボランティアでの参加にはいかなかった。行政や学校とは、児童や家庭の状況などについて、変化や気になるところがあれば連絡を取り合い情報を共有した。特に、行政とは児童の確保に向けての共有も行ってきた。 4の達成状況:1年を通して季節を感じるイベントを計画し、花見や流しそうめん・クリスマス会など実施計画以上の回数行った。児童にとって様々な体験の機会を持ってもらうとともに、子ども時代の楽しい思い出づくりとなった。			

3.事業実施によって得られた成果

事業内容である「子どもとの1対1の関係を重視しながら、子ども達の生活習慣形成や意欲向上を支援することで社会的相続を補完する」という目的に向かって、子どもたちが置かれている環境や自身の状況などの把握に努め、児童一人ひとりに寄り添った支援を行った。その結果、学習習慣や生活習慣に改善がみられただけでなく、自己肯定感の向上や少年期の多様な経験などにも繋がった。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

子ども第三の居場所が困難を抱える家庭の子どもが利用する場所というイメージを持たれることから、利用を控える保護者や周囲の目がある可能性を想定し一般への広報は控えており、行政と連携し家庭に困難を抱える児童のみの受け入れとしているが、行政から紹介される家庭がほとんどない状況が続いている。保護者が利用を拒否していたり、必要と感じていないケースがあるようにも思われ、この現状についての対応策については、検討中である。

児童の学習習慣や生活習慣の改善を行うにあたって、成果がしっかりと見えるほどにするには、児童それぞれに抱えている課題も多く、想定以上に職員の充実を図らなければいけないと感じた。今年度については、1日の平均利用児童数が目標値より少なかった為に対応できたが、利用児童数によっては職員の数が必要不足することも想定している。ただ、職員数を増やすだけでなく、職員のスキルアップや経験値の積み上げも必要で研修等も充実させていきたい。

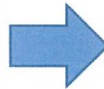
5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

活動報告書

(2)事業完了時の成果物名称

活動報告書



(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

https://nippon.zaidan.info/nf_lib/nf_libServlet/nf_lib1050?np=1019&jigyo_id=0000100294